

第2回審議会の主な意見

- 前回の審議会は、ハード面から捉えていた様に思えるが、それで適正配置が進まないのであれば、ソフト面に光をあてて議論していく必要があるのではないかと。
- 町会・自治会を分断して学校を設置していることは、町会・自治会の様々な行事に対して負の影響が大きい。加えて、国道を越えて小学校に通わせ、安全上の問題もある。現在の学区域のあり方の検討を要する。
- 志村三小の児童数減少の最大の原因は、大規模集合住宅の建替えによりその住宅が板橋区から北区に組み入れられたことである。児童数減少の原因がはっきりしている場合や、周辺の空き地の状況から大規模集合住宅が建築される可能性があるなどの増加となる要因がある場合は、資料にその旨を明記してほしい。
- 学区域図に小規模校を落としたが、区役所周辺に固まっている。次に問題となりそうな地域が区の南側にある。それらに比べて赤塚地域は通学距離の長い学校も多い。学校が過密な板橋地域は、建替え時期とも重なっていることから、無駄な投資を行わないような統廃合を進めていく必要がある。
- 150人を再度検討する必要もある。1学級20人を切ったらなぜいけないのかを保護者・地域に説明できないといけない。それが出来ていないから現在の過小規模校が存在する。
- 小規模校化に学校選択制の影響も見られる。この審議会で学校選択制の検証もしていかなければならないのではないかと。
- 13年答申で適正配置が進まないことの検証をすることがこの審議会の役割である。
- 区の適正配置に対する考え方は。やる必要がないと考えているのであれば、150人以下の少人数でも良い教育をやっていく、向こう10年は統廃合を行わないと言い切らないと風評被害で過小規模校の状況はどんどん悪くなっていく。その考え方をはっきりさせるための審議会であるならば、統廃合をやるかやらないかの議論から行わないといけない。
- 統廃合にいたる基準についてはこの審議会で議論することだが、区としては教育上の観点と財政上の観点から適正配置を推進する立場である。13年答申の1学級あたりの児童生徒数の20人は教育的見地からも必要であるといってきた。また、教員の育成の面からも単学級では不都合がある。子どもたちの本当の教育を少人数で確保するには、どの程度まで許容されるのかを議論しなければならない。更に、効率的な経営により削減し

た金額を、教育の他の部分に使う必要があるのではないかという点を議論したい。

- 13 年答申には、適正規模の考え方に特別支援学級を取り入れていないが、取り込むことによって学校を整備することも検討したい。
- 中教審においても、1 学年 1 学級は、教育的見地からいってもよろしくなく、2 学級以上のクラス替えが出来る規模がコンセンサスとなっている。2 学級を国の 40 人学級での学級編制で考えるのか、区独自にもっと少ない人数で学級編制し、40 人以下でも複数学級を組んでいくのかも考えるに値することだ。区の財政負担を考える必要があるが。2 学級ということが適正規模を考える上で大きな話題となる。その背景にクラスサイズをどうするかということが絡んでくる。
- 統廃合が行われた地域では、地域の学校への思い入れが強く、廃校後の跡地がうまく活用されずに、財政上の重荷になっているところも見受けられる。財政上の問題とリンクしないところに統廃合の難しさがある。
- 将来の板橋区にとってベターな方策をこの審議会で決定するのが我々の責任で、統廃合が進まない様々な要因を一つずつ明らかにしていくことが審議会に課せられている。それを小委員会において、どれを取り上げどういう順番で解決していけばよいか図ってほしい。各委員がこの審議会にどんなことを期待しているのかを話し合いたい。
- 保育計画で長期の乳幼児人口を示していた。5 年先ではなく、大規模集合住宅を勘案した、もっと長いスパンの将来予測を出してほしい。
- 13 年答申の状況と現状がどの様に違ってきているかをみていく必要がある。例えば、少人数学級を実施した場合の影響、大規模校に対応する施策など。
- 過小規模になったからどうするのではなくて、過小規模になるかもしれないけれども区全体としてどういう教育方針（例えば少人数学級の実施）をもって、学校配置をおこなうかを白紙の状態から考え直すことを審議会で行なわなければならない。
- 小規模校であればあるほど 150 人という数字が一人歩きし、風評により安心した学校生活を送れない状況にある。
- 適正規模を超える学校規模について論じないのか。少人数の学級のデメリットは理解しているが、1 学級の子ども達もきちんと授業を受けている。150 人の議論をしていきたい。子どもたちが多すぎる学級も心配である。
- 小規模の学校も地域とともに特色を作って、残していける方向にもっていけたらよい。
- 町連としては、支部に最低 1 つは小中学校を残すようにしてもらいたい。それが崩れた場合、いろいろな地域から子ども達が集まり、顔が分からないため、安全、防災などで支障をきたしてしまう。小学生のうちは地元の学校に通わせ、どの小学校でも同じ教育

が受けられるよう条件整備するのが区の役割だと思う。

- 小学生低学年でさえも、今までの2学級が、友達の転出によって単学級になってしまうことを心配している様子が窺える。学級編制の人数を議論して、地域、支部ごとにできるだけ学校を残してほしい。